

紙おむつ力合わせてリサイクル

福岡県内で紙おむつリサイクル事業を手掛けるトータルケア・システム(福岡市)は7日、住友重機械エンバイロメント(東京)、凸版印刷(同)と協業し、事業の全国展開を目指すと発表した。高齢化の進展で紙おむつの使用量が増加傾向にある中、焼却の際に発生する二酸化炭素(CO₂)排出量の削減につなげる。

トータル社は使用済み紙おむつを薬剤で処理して分離し、パルプやプラスチック、吸水ポリマーなどを回収する

福岡のトータル社など3社 全国展開へシステム構築

技術を持つ。福岡県大木町とみやま市を対象に事業を展開しており、再生したパルプは建築資材の原料、プラスチックとポリマーは燃料として活

用している。

協業は回収する全ての再生可能な資源をリサイクルするシステムの構築を目指し、凸版印刷は回収した材料を活用した介護や医療向けなどのさまざまな製品を開発。住友重機械エンバイロメントはプラ

①使用済み紙おむつから取り出したパルプを洗浄、殺菌する工程②建築資材の原料になるパルプのシート
|| いずれもトータルケア・システム提供



ント設計や施工を担う。3社はリサイクル施設の新設を視野に入れており、2022年度以降の事業化と全国の自治体からの採用を目指す。

使用済み紙おむつは、し尿を含んで重くなり、焼却しづらいという課題がある。環境省は3月末、主に焼却処理されている紙おむつの再生利用などに向けたガイドラインを公表した。トータル社の坂口弘典常務は「紙おむつをリサイクルすることが当たり前の時代になるよう、3社で連携して実現したい」と意欲を見せた。(具志堅聡)